

臨床医の診療のための情報提供方法に関する研究

阿部信一、武山由紀、古関美津子
東京慈恵会医科大学学術情報センター

目的：

現在、診療に必要な情報の入手方法は、従来の図書館での文献検索・文献複写に加えて、ネットワーク上のデータベースや電子ジャーナルなどから情報を得ている医師が増えている。そのような各種情報源の契約や利用環境の整備が図書館等の重要な業務になっているが、臨床医にとってより有効な情報サービスのあり方について検討することを目的に、臨床現場での情報提供サービスに関する調査を計画した。

方法：

医師が診療に当たって情報が必要になったときに調査依頼票に記入してもらう。それらを図書館員が回収し、データベースの検索、文献の選択・複写を行い、依頼ごとの「ポケット」として提供する。医師はそれらの情報について、診療後に提供された情報の内容や量、診療行為への有効性等を評価票に記入する。今回の調査には腎臓・高血圧内科の協力を得た。また、今回の調査では文献情報の提供を優先し、医学中央雑誌 Web 版と JMEDPlus での検索を第一選択、次に MEDLINE (OVID) を検索した。補足的に、UpToDate や今日の診療の関連情報も調査した。

結果：

2006 年 1 月 24 日 (火) ~ 2 月 6 日 (月) の月曜 ~ 金曜に調査を実施した。調査依頼票は合計 11 件回収された。疑問内容は、腎臓・高血圧に関連したものではあるが多岐に亘り、これまでの調査と同様に診断に関するものが多かった。また、提供された情報は 4 割が「適当」または「やや適当」との評価だが、それらによって診療行為が変わったとの回答はなかった。情報の有益性や満足度はある程度高かった。

考察：

今回の調査では、専門性の高い診療科を対象に行ったが、以前に調査した総合診療部での結果と同様に診断に関する依頼が多く、求められる情報の範囲も基本的なものから専門的なものまで幅広い疑問が示された。提供情報の内容の適切性や満足度は以前の調査よりも高くなったものの、どれでもあまり高いとは言えない。今後はさらに調査によって臨床現場で求められる情報の特徴の分析を進め、ネットワーク上で提供する情報源や、情報サービスを行う専門職に求められる要件等についてまとめていきたい。

なお、今回の調査は、平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金 (医療技術総合研究事業) 「患者 / 家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」の分担研究として行った調査を基にまとめたものである。